

[様式 9 - 1]

福祉サービスなど第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人永興福祉会 永興くじょう保育園	施設 種別	保育園 (旧体系)
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構		

平成 29 年 8 月 21 日

総 評	<p>永興くじょう保育園は、京都駅八条口方面にある大型ショッピングモールの南側という京都の玄関口の立地ながら、園の南側には、隣接した大きな公園や小学校があり、子どもたちがのびのびと過ごせる環境が整っています。通園児保護者の中には、京都駅をプラットホームとして、京都以外にある遠隔地を職場にもち通勤時の送り迎えがある状況を聞きとることもできます。</p> <p>社会福祉法人永興福祉会を運営主体として、永興小金塚こども園を含む6園が運営されており、2018年4月からはさらにもう1園の開設が予定されています。同園は、2015年4月に公設（京都市）からの民間移行を受けて開設されました。開設にあたっては、三者協議会（保護者・京都市・同園）にて何度も繰り返し今後の運営や要望について協議が行われ、園児・保護者の不安に丁寧に寄り添いながら、園長及び主任が中心となって現体制を精力的に構築されてきた状況をうかがうことができます。</p> <p>法人の保育の理念には、「どっちも大事（親と子）にし、最善の保育を行う」を掲げ、「1.遊び 2.体験 3.子育て支援 4.安全・安心 5.地域」の視点から保育の基本方針及び0～5歳児までの保育目標が明確に提示されており、毎月行われている職員会議や保護者会などで定期的に周知されている状況を聞き取ることができます。さらに、「1.組織体制 2.設備の整備 3.職員体制 4.人材育成 5.子育て支援」の項目を基本に中長期計画が策定されている他、毎月、専門家（税理士）の助言を得ながら、園長を中心として経営環境の強化や職場環境の改善にリーダーシップを発揮されています。労働環境においては、職員の就業状況を適切に把握し、職員の意向に基づいて、有給取得率がほぼ100%の状況にあることが聞き取れ、高く評価できます。</p> <p>「幼保小連絡会」の開催や山王児童館との連携、地域の催し「ふれあいタウン」への参加等、子どもたちが地域と関わる機会を大切にする機会が設けられています。</p> <p>今回、第三者評価については初めての受診となり、自己評価の段階においても職員とのやり取りの中で判断に苦慮し、さまざまな葛藤があったとの説明を受けました。しかし、管理職及び職員の高い意識のもと、公設からの民間移行も順調に行われ、子どもたちを育み、総合的支援のための環境整備に努め、適切な保育実践が行われているものと評価することができます。第三者評価の視点からの必要整備書類の中には、実習生やボランティアの受入れに関する意義や基本的な考え方など、書面として一部未整備なものが見受けられます。書類の整備については、今後の運営体制の中で優先順位を設定され、段階的に整えていくことを検討されてはいかがでしょうか。</p> <p>今後、さらに「最善の保育を行う」という理念のもと、質の高い保育の提供に継続して取り組まれますことを期待しています。</p>
--------	---

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>I-1-(1) 2015年4月からの民間移行を受けて、三者協議会(保護者、京都市、同園)を継続的に開催し、園児と保護者の不安に寄り添いながら、「どっちも大事(親と子)にし、最善の保育を行う」という保育の理念や基本方針・目標を明確に示し、保護者や職員のみならず、「園だより」を通じて地域に対しても継続した周知が図られている状況をうかがうことができます。</p> <p>II-2-(2) 人員体制や人材育成については中長期計画に策定・明示しており、離職率の低い適切な職場環境の構築に向けて取り組まれています。特に有給休暇については、労務環境を把握し、職員の意向をくみ取りながら、全員が取得できるように積極的に取り組まれており高く評価できます。職員の悩みや相談は園長及び主任を中心に、適切なアドバイスが行えるよう日常的なコミュニケーションを大切にしています。働きやすい職場環境に向けて取り組まれている成果の一端を職員ヒアリングからも聞き取ることができます。</p> <p>IV-1-(3) 保育理念に基づき、子ども一人ひとりの多様性を尊重し、理解を深め受容しようと努められています。子どもたちの愛称(ニックネーム)等は、親の了解を得た後に呼ぶようにしています。登園時に年齢に合わせて「まず何から遊ぶか」を一緒に考える姿勢、木の実や花を使って身近な自然を感じることでできる取り組みや、御神輿作り等、日本の伝統的な行事に関心もてるような取り組みが行われている状況を聞き取ることができます。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>II-2-(3) 役職に沿った体系的な研修計画が策定されている状況はうかがうことができるが、職員一人ひとりの意向・経験・能力に沿った研修計画の策定状況は確認できなかった。職員一人ひとりの状況に合わせた研修を行うことで、さらに園全体としての資質の向上に資する研修が行われることに期待します。</p> <p>III-3-(2) 転園・卒園にあたり、組織として保護者等が相談できるように担当者や窓口を文書でお知らせしており、園児の状況を報告・共有するなどの連携体制があることは聞き取れますが、その手順や引継ぎ文書を定めたマニュアル等は確認できませんでした。今後、状況に応じて保育終了後の相談対応マニュアルなどの整備を検討されますことに期待します。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	永興くじょう保育園
施設種別	保育園
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構
訪問調査日	2017年6月28日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	A	A
		① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A	
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A	
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A	
	⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A	
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1-1(1) 保育理念は、「パンフレット」や月1回に発行している「園だより」「平成29年度永興くじょう保育園保育課程等」に記載されていることが確認できた。理念は、「どっちも大事(親も子)にし、最善の保育を行う」であり、保育園の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができた。

I-1-1(2) 保育理念は、毎年4月の職員会議で重要事項説明書をもとに周知がされていることを聞き取った。理念が書かれた「運営規程」「重要事項説明書」「平成29年度永興くじょう保育園保育課程等」をファイリングしたものが、保育園の入り口に設置され、職員にも利用者にも周知をされていることが伺えた。

I-2-1(1) 「1. 組織体制、2. 設備の整備、3. 職員体制、4. 人材育成、5. 子育て支援の項目を基本に、中・長期計画が策定されていることを「中長期計画」から確認できた。具体的な数値も示されており、ビジョンを明確にしていることが伺えた。

I-2-1(2) 「平成29年度永興くじょう保育園保育課程等」に保育理念が書かれていることが確認できた。また、基幹ステーションとの連携関係も築き、地域の実態把握をしていることを聞き取った。0~2歳児には「年間計画」「保育計画記録」「年間指導計画(個人別)」「期別年間計画」「年間指導計画案」、3~5歳児には「期別年間計画」「月案」「個人別月案(気になる子ども用)」を作成し、一人一人の発育過程や状況を十分に踏まえた保育が適切に展開されていることを確認できた。なお、指導計画の見直しは、月1回開催される職員会議で行なっていることを聞き取った。

I-3-1(1) 管理者の役割と責任については、「職員の質向上等に係わる計画」に書かれていることが確認できた。また、遵守すべき法令等については「法令リスト」としてまとめており、それに基づきサービスの提供が行われていることを聞き取った。

I-3-1(2) 専門分野別研究制度を導入し、年度末に研究発表を行なうことで、管理者は保育サービスの質の現状について把握していることが伺えた。また、月1回税理士のチェックが入り、経営上の具体的なアドバイスを得ながら、園長を中心として経営環境の強化や職場環境の改善にリーダーシップを発揮されていることを聞き取った。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-1 (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-1 (1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A	
		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A	
	II-2-2 (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
		II-2-3 (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	B
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A		
II-2-4 (4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	B		
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A		
II-3 地域との交流と連携	II-3-1 (1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A	
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A	
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	B	
	II-3-2 (2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A	

A

II-1-1 (1) 経営状況の把握については、専門家（税理士）や職員の意見を踏まえながら、周辺環境の状況を把握している。その上で、需要・供給のバランスを考えサービスを提供し、経営環境の変化等に適切に対応していることが伺えた。

II-2-1 (1) 職員体制については「中長期計画」で具体的な数値で示されていることが確認できた。また「職員の質向上等に係わる計画」で職階に応じた人材像が示されていることも確認できた。

II-2-1 (2) 職員体制や人材育成については「中長期計画」で明示されていることが確認できた。有給休暇は、管理者が取得を積極的に奨励し、全員が取得できるように取り組んでいることが伺えた。職員は、日常的に園長や主任とコミュニケーションがとれる関係性にあり、職員一体となって働きやすい環境整備に取り組んでいることが聞き取れた。

II-2-1 (3) 「平成28年度職員研修計画」に、保育職、調理職について年次に応じた研修のメニューが提示されており、受講後は「研修受講報告書」を提出していることが確認できた。毎年3月には専門分野別の発表会が開催されていることを聞き取った。また、「職員の質向上等にかかわる計画」では職階に応じて求められる専門技術等について記載されていることも確認ができた。しかし、職員一人ひとりの教育・研修計画は策定されていないため、II-2-1 (3) ②はB評価とした。

II-2-1 (4) 平成28年度は実習生を5人受け入れており、実習における留意事項等が「実習生受入対応マニュアル」に記載されていることが確認できた。しかし、受け入れに関する意義や方針については記載されていなかったため、II-2-1 (4) ①はB評価とした。

II-3-1 (1) 保育園で開催する夏まつりは、地域住民の方にも案内を出し、地域とのかかわりを大切にしていることが伺えた。また、離乳食に関する学習会といった子育て世代に役立つ講演会等を開催していることが分かった。京都市の「クールキッズステーション事業」に協力し、夏の間、クーラーが設置され快適に過ごすことのできる施設の一部を地域に開放しており、子どものみならず、高齢者にも幅広く利用されていることを聞き取った。中高生の職場体験も受け入れており、ボランティアの留意事項等が「ボランティア受入対応マニュアル」に記載されていることが確認できた。しかし、ボランティア受け入れに関する意義・方針が明文化されていなかったため、II-3-1 (1) ③はB評価とした。

II-3-1 (2) 各種行政機関、救急病院等はリスト化され、職員が手に取りやすい場所に設置されており、関係機関とすぐに連絡をとれる体制が確保されていることが確認できた。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ-1-1(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	C
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	C
	Ⅲ-2-2(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-1(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	B
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-2(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	B

[自由記述欄]

Ⅲ-1-1(1) 利用者のプライバシー保護に関しては「プライバシーポリシー」が整備されており、個人情報の保護など、利用者を尊重する姿勢を伺うことができた。

Ⅲ-1-1(2) 苦情解決の仕組みは「苦情処理マニュアル」「苦情相談対応フロー」において確立されていることが確認できた。利用者からの意見については、苦情解決と同様の対応をしていることを聞き取った。

Ⅲ-2-2(2) 入園時に提出してもらう「健康管理カード」、日々の健康状態を記録する「健康記録簿」について、組織で統一した様式を用いることで、情報の把握記録していることが確認できた。アセスメントの見直しは、毎年3月に行なわれていることを聞き取った。また、利用者に関する記録の管理体制については、実態に基づいて執り行われてきたが明文化した規定等はなかったため、B評価とした。

Ⅲ-3-1(1) ホームページやパンフレットなどで理念や組織、保育内容の説明などがわかりやすく表現されている。ただ、保育所紹介ビデオの作成がないため、B評価とした。重要事項説明書にて、説明文内容ならびに保護者の記名、押印での同意を確認した。

Ⅲ-3-2(2) 転園後の流れについての手順書、マニュアルが明文化されていないためB評価としたが、幼保小連絡会などへ出席し、相互の連絡を実施している。卒園式の案内にも卒園後も気軽に相談できる旨の一文を記載しており、卒園後も卒園後の様子を確認できるよう、来園のきっかけづくりとして、卒園者にも夏祭りの案内を送付するなど、積極的に把握に努めていることが確認できた。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	B
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかがわられるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	B

[自由記述欄]

IV-1-(1) ① 視診チェックリスト運用のための健康管理に関するマニュアルが明文化されていないためB評価とした。年度末には予防接種や既往症の見直しを行い、健康カードで把握している。また、登園時の視診を記録し、担任と共有するなど把握に努めている。保護者の心配を軽減できるよう、健康診断、歯科検診などの結果は書面と口頭で伝達されていることを聞き取った。感染症対応については「感染症対応マニュアル」で確認した。野菜の栽培、収穫に子どもが関わったり、マグロの解体見学などを通じて「命をいただく」という食育に対する取り組みもなされている。食状況の把握では残食チェックの実施を聞き取った。毎月の献立表提示や0歳児の離乳食試食、3歳児、1歳児の給食試食会なども実施されており、レシピ配布など工夫された家庭との関わりが確認できた。

IV-1-(2) 園庭が整備されており、点検表で遊具チェックがなされていることを確認した。就寝のためのコット（ミニベッド）の導入やスペースを区切るなどリラクセス空間の保持に対する工夫を確認した。

IV-1-(3) 園庭に公園と小学校が隣接しているため、まち中にありながら緑も多く、公園も園庭の続きとして自由に利用できるなど、周辺環境に恵まれている。名前の呼称については、入園時に家庭とも連携して呼称を決定するなど、個々に配慮されている。紙おむつ・布おむつは、どちらも可としており、各家庭の多様性に対応するなど、一人ひとりへのきめ細やかな状況把握がなされている。登園した際に、各自が自由に遊びを選択できるよう様々なおもちゃを設置している。また、年齢に応じ、音楽・絵画教室なども開催されている。人間関係の育成につながるよう、幼児組の異年齢児クラスや兄弟姉妹へのクラス配慮もなされており、人権、異文化については理念の「どっちも大事」を方針としていることを聞き取った。性差や概念に対する配慮として、遊びや活動も選択肢を自由としていることを確認した。乳幼児SIDSチェック、長時間の保育環境については聞き取りと個人指導計画、個人記録で確認した。⑪については、建物のバリアフリー未整備につきB評価とした。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

IV-2-(1) 保護者との日常的な情報共有について「児童記録」「個人月案」「保育日誌」「個人記録」「健康記録」で確認した。乳児、幼児共に年間2回のクラス別懇談会が開催されており、その際、幼児は給食試食会も開催されていることを聞き取りした。虐待防止については「虐待防止マニュアル」での職員周知と実施を確認した。小学校行事や「ふれあいタウン」などにも定期的に参加しており、専門機関との連携について聞き取りした。

IV-2-(2) 一時保育は、終日9時～17時、4時間半日とした午前、午後で受け入れている。受け入れに当たっては、個々の生活習慣などを確認するため、一時保育希望者との事前面談を実施し、細やかな配慮がなされていることを聞き取りした。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

IV-3 月1回の衛生管理ミーティングによるマニュアルの見直しを実施しており、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に反映されている。食中毒対応マニュアルがあり、研修も実施されており、職員会議でも報告がなされていることを聞き取りした。「事故防止対応マニュアル」ならびに事故防止のためのチェックリストがあり定期的に点検がなされている。「ヒヤリハット」「事故報告書」などもこまめに活用されており、主任から園長まで確認と共有がなされている。「防災マニュアル」の項目として地震、火事、不審者侵入等の各対応マニュアルを確認した。不審者対応の際の暗号も決められ職員に周知されており、全体としては警備会社への委託がなされている。